

第5次レッドデータブック：
絶滅のおそれのある日本の野生生物
The 5th Red Databook, Threatened wildlife of Japan

タネコマドリ

Larvivora akahige tanensis (Kuroda, 1923)

永田尚志（新潟大学）

絶滅のおそれのある野生生物の選定・評価検討会 鳥類分科会



環境省 編

令和8（2026）年3月



特に文献内で別途指定がない限り、この文献はクリエイティブ・コモンズ 表示 4.0 国際ライセンスの下に提供されています。

<https://creativecommons.org/licenses/by/4.0/deed.ja>

種毎の解説を引用する場合には以下のように記述してください。

引用表示：永田尚志，2026．タネコマドリ．環境省（編）第5次レッドデータブック：
絶滅のおそれのある日本の野生生物，pp. 622-625．

Citation: Nagata, H., 2026. *Larvivora akahige tanensis* (Kuroda, 1923). In: Ministry of the Environment, Japan (ed.), *The 5th Red Databook, Threatened wildlife of Japan*, pp. 622-625.

タネコマドリ

Larvivora akahige tanensis (Kuroda, 1923)

カテゴリー判定結果		絶滅危惧Ⅱ類 (VU)		B2ab	
基準 A: —	基準 B: VU	基準 C: —	基準 D: —	基準 E: —	
B2. 生息地面積が 2000 km²未満であると推定されるほか、次の兆候が見られる。 a) 生息地が過度に分断されているか、10 以下の地点に限定されている。 【地点数】10 地点以下 b) 出現範囲、生息地面積、生息地の質、生息地点数、成熟個体数のいずれかに継続的な減少が推定・予測される。 【判断理由】 1980 年代に三宅島、青ヶ島、八丈島、利島に島外から導入されたイタチにより、地上採食性の本種の生息密度が激減したと考えられている。島外から導入されたイタチがいる限り、生息個体減少傾向は改善されず、絶滅する危険性は依然として増大している。					
評価分科会： 鳥類分科会					

概要

伊豆諸島の三宅島、御蔵島、利島、八丈島、八丈小島、青ヶ島に留鳥として生息している。神津島では、過去に繁殖記録があるが、現在では本種に適した生息環境はほとんど残っていない。照葉樹の繁った暗い森林の沢筋や谷筋に多く生息し、林床で昆虫を採餌する。生息個体数は不明だが、近年、イタチの侵入により激減した。

基礎情報

【形態】

全長 14 cm。オスでは、頭部から上胸および尾羽がオレンジ色で背と翼は暗橙褐色、下胸部が黒く胸側と脇はダークグレーで腹は白い。メスは全体に色が鈍い。本州で繁殖する基亜種であるコマドリ (*Larvivora akahige akahige*) のオスは、上胸部と下胸部の境に黒い細い帯があり、尾羽がやや長いことで識別可能。

【生活史】

昆虫食。地上から 1.5 m くらいの崖または 1~4 m の樹枝上巣をかけて営巣し、4~6 月に 3~4 卵を産む。枯れ葉や草の茎を主材としたカップ型の巣を造り、産座として細根やシュロの毛などを敷く。樹枝上の巣では基部に大量の苔類を積み重ねることが多い。雛には、ゾウムシやコメツキムシなどの鞘翅目幼虫、アリなどの膜翅目、クビキリなどの直翅目、ヤスデ、ミミズなどを給餌する。

【生息環境】

伊豆諸島では発達した照葉樹林やヤシャブシ林に留鳥として周年生息する。島の溪流畔に多く、ときには乾燥した草地にも生息する。三宅島や御蔵島ではスダジイの薄暗い常緑広葉樹林や林中の溪流、沢などに多い。

生息環境区分：	【陸域_低標高地】森林、草地 【陸域_平地部】森林
国土地域区分：	(1) 奥山自然地域, (7) 島嶼地域

【分布域】

三宅島以南の伊豆諸島に留鳥として分布しており、具体的には、三宅島、御蔵島、利島、八丈島、八丈小島、青ヶ島、神津島で記録がある。神津島では、現在繁殖は確認されていない。

現在の生息状況

【分布域の現況】

伊豆諸島では、神津島、三宅島、御蔵島、八丈島、八丈小島、青ヶ島、利島に生息している。1972 年には、三宅島、御蔵島では高密度に分布し、利島では山頂付近、八丈島では東山で、青ヶ島では外輪の外側の谷筋に分布していた。御蔵島以外の生息地では著しく減少している。冬期には神津島で越冬する個体があり、伊豆半島で確認されることもある。

【生息地の現況】

神津島では生息環境はほとんど残っていない。御蔵島、三宅島、八丈島では生息環境は残っている。利島、青ヶ島の状況は不明。

【個体数の現況】

生息個体数は不明であるが、近年、三宅島をはじめとして著しく減少していると考えられる。八丈島でも少ない。生息密度は伊豆諸島で 3~15 つかい/km センサスライン (1973

年)。2009 年のモニタリングサイト 1000 において三宅島の一般サイトで 1 ヶ所記録があるのみで、最近のデータはない。ただし、三宅島の 2000 年噴火の後、2001 年から 2009 年にかけて実施された鳥類調査でも、本種は大路池周辺で記録されており、三宅島の個体群は噴火後も維持されていることが確認されている。

存続を脅かす要因

森林伐採、土地造成等の生息環境の破壊で神津島では下位個体群がほぼ消失。イタチの導入により三宅島では個体数が減少したと推定される。

要因の区分：	(過去)	森林伐採，土地造成，捕食（外来種による）
	(現在)	森林伐採，土地造成，捕食（外来種による）

特記事項

非繁殖期に種子島で採集された標本をもとに本亜種（*Larvivora akahige tanensis*）が記載された（Kuroda 1923）。以前は、種子島・屋久島に分布する個体群も本亜種とされていたが、現在では、同個体群は基亜種（*Larvivora akahige akahige*）と考えられており、日本鳥類目録改訂第 8 版（日本鳥学会 2024）においても、種子島・屋久島の個体群は本亜種に含まれていない。

旧レッドリストカテゴリーと掲載名

第 4 次 2020:	タネコマドリ	<i>Luscinia akahige tanensis</i>	VU
第 4 次 2019:	タネコマドリ	<i>Luscinia akahige tanensis</i>	VU
第 4 次 2018:	タネコマドリ	<i>Luscinia akahige tanensis</i>	VU
第 4 次 2017:	タネコマドリ	<i>Luscinia akahige tanensis</i>	VU
第 4 次 2015:	タネコマドリ	<i>Erithacus akahige tanensis</i>	VU
第 4 次:	タネコマドリ	<i>Erithacus akahige tanensis</i>	VU
第 3 次:	タネコマドリ	<i>Erithacus akahige tanensis</i>	VU
第 2 次:	タネコマドリ	<i>Erithacus akahige tanensis</i>	VU
第 1 次:	タネコマドリ	<i>Erithacus akahige tanensis</i>	R

都道府県レッドリスト・レッドデータブック掲載状況（令和 6 年度末時点）

【東京都（伊豆諸島）】絶滅危惧Ⅱ類(VU)，【鹿児島県】絶滅危惧Ⅱ類

保護に係る法令指定状況（令和 7 年度末時点）

参考文献

- 藤井幹・丸岡禮治, 2008. 神奈川県大山山麓におけるタネコマドリ *Erithacus akahige tanensis* の記録. 日本鳥類標識協会誌, 20: 39-42.
- 樋口広芳, 1973. 伊豆諸島の鳥類 (I) 繁殖陸鳥の分布と生息環境. 鳥, 22: 14-24.
- 加藤和弘・樋口広芳, 2016. 噴火が鳥類群集に及ぼす影響: 伊豆諸島三宅島の事例を中心に. 地球環境, 21: 33-42.
- 山本裕, 2001. 「この鳥を守ろう」 の現在 (50) 伊豆諸島の鳥たち—モスケミソサザイ、タネコマドリ、アカコッコ、ウチャマセンニュー、イイジマムシクイー. 私たちの自然, 42: 22-25.

アセスメントサマリー (Assessment summary)

Larvivora akahige tanensis has been assessed for threatened wildlife of Japan Red List 5th edition. *Larvivora akahige tanensis* is listed as VU under criteria B2ab.

B2. Area of occupancy estimated to be less than 2,000 km², and estimate indicating at least two of a-c:

- a. Severely fragmented or known to exist at ten or fewer locations.
- b. Continuing decline, observed, inferred or projected, in any of the following:
 - (i) extent of occurrence
 - (ii) area of occupancy
 - (iii) area, extent and/or quality of habitat
 - (iv) number of locations or subpopulations
 - (v) number of mature individuals

Habitat types:	【Terrestrial/Freshwater area_Low-altitude area】 Forest, Grassland 【Terrestrial/Freshwater area_Plain】 Forest
Threat types:	Logging and wood harvesting, Land development, Predation (by alien species)
Law designation status for conservation	Wildlife Protection, Control, and Hunting Management Act.

執筆者: 永田尚志 (新潟大学)
Author: Hisashi Nagata

公表年月: 2026 年 3 月